

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	株式会社 ゆとり	事業所名	看護多機能ホームまべちの風
所在地	(〒 039-1101) 青森県八戸市大字尻内町字表河原31-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ① 住み慣れた地域で継続した生活が出来るように福祉・医療・地域等が一体化して高齢者の在宅生活を支えることを目標としている。特に訪問介護に力を入れて少しでも長く在宅生活を継続できるようにしている
- ② 利用者家族の仕事の都合に合わせた柔軟な対応として、朝食と夕食の食事をまべちで食べる対応をしている。例えば、夕食をまべちで食べることで急な宿泊をすることなく帰宅できている。また、夕食をまべちで食べることで、家族の帰宅後の食事介助の軽減になっている
- ③ 施設の雰囲気作り、施設ではない家で過ごしている感覚があることによってリラックスして利用できるようにしている
- ④ いつでも明るく元気な介護を提供している

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 3 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 24 日	出席人数 (合計)	(25) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (14 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (2 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2 人) <input type="checkbox"/> その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の理解⇒事業所で利用できる条件だけは全員覚える ・感染症は手洗いうがい、消毒を実施して職員も休息をとる ・求人は常に募集する。 ・ヒヤリハット月20件上げ、事故を防止する 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護多機能とまべちの理念を事業所内に掲示していつでも確認できるようにしている。 ・介護保険制度における看護多機能の理解度確認を記述式で行った ・感染症の対策を利用者・職員が毎日行った。積極的に有給を職員全員に摂ってもらった ・求人は続けた ・ヒヤリがあった時は文書で書き出しカンファレンスを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実践から理念を行動に移すことが出来ている。掲示されている理念も視覚で確認することが出来ていた ・職員の記述アンケートを集計してほぼ全職員が理念を理解していた ・日々感染対策を行ったがクラスターが1年間で2件発生し1名の利用者がお亡くなりになった。また、コロナに感染後在宅にサービスに戻れなくなった利用者もいた。感染対策は継続して拡大防止をしていく必要がある ・求人を持続しても訪問、通所、夜勤すべてが出来る人材がこない工夫の必要がある ・介護現場でヒヤリとすることが何度かあってもヒヤリハットに上げる件数が少ない。次年度も継続して事故防止に努める ・適切な運営をしていると信頼している ・理念はおおよそ出来ている ・コロナ等の感染で大変かもしれないがしっかりと対策を講じながらイベント等続けてほしい

II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者には専門職として接していると言う意識を持ち「自立援助」に向けた声掛けや見守りも支援する ・本人の状態のアセスメントと家族の特徴や苦手な事をカバーできるように家族アセスメントをする ・観察、伝達の強化⇒理由と根拠をセットで伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性に合わせて自立支援を促すことが出来ていた ・職員が訪問時、在宅での生活情報の収集や家族からの聞き取り実施後アセスメントをした ・連絡・報告・相談の連携が中断することがあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器洗いができる。おしぼりたたみが出来る利用者は行動を尊重して見守りして、今後も自立を促す 在宅の生活を支えるために、24時間アセスメントは重要、これからも訪問介護や訪問看護と連携して行く ・伝えた時に相手の意見を否定しない。「ありがとう」「良く伝えてくれた」の気持ちを相手に伝えることで連携がスムーズになる。連絡・報告・相談してきた時に否定しない。否定されると次から相談しないようになる。一人ひとりの話を丁寧に聞くことが不足している。今後はチームの和と輪で切れ目のないコミュニケーションをとれるようにする
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所と積極的に職員が連携、連絡を取る ・電話連絡が受けられるように、次につながる「聞き取り表」を作成してそれにしたがって聞く ・利用者が関わる介護保険外のサービスは職員も覚える 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の必要な情報や他事業所への情報提供など伝えることが出来ていた ・電話は職員誰でも対応することができた。聞き取りだけ済ませないで、伝達することもしていた ・介護保険外のサービスについても家政婦の利用や配食サービス、訪問理美容についても実際に利用している対象者から知る機会があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護も介護も利用者に必要なことは関係する事業所に伝えることが出来ていた
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや運動は地域の意見も取り入れる ・地域に年2回程度のお知らせや事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちも参加しやすい雰囲気作りをして地域とのつながりを増やす ・事業所の役割を地域の人に知ってもら 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症もあり、地域との交流もなかなか思うようになかった。感染対策もしっかりしながら対面での交流に

	目 32～41)	の職員紹介表を作り顔を覚えてもらう。相談を受けたら真摯に答える。事業所や配食、使えるサービスの紹介を続ける	い、地域の人が困った時に相談できる場所としての役割の為にまべち新聞で知らせている	心がける ・誰でも安心して地域で生活するためには看護多機能の役割を果たすには、介護・医療面の知識や技術の向上が必要である
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		いつでもだれに言っても良く見てもらっているから安心して全家族が思ってくれるように取り組む	・こまめに訪問して、家族の不安や希望の聞き取りを行った	・家族の話を良く聴き、良く見てもらっている満足や身体度は十分達成することができた ・頻回な訪問を実施して満足している。職員の声掛けが優しい

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を相手の日常の仕事の他、コロナ対策やその他諸々の想定外の仕事があると思われる中で、労働環境改善等の取り組みや求人を持続しても求職者が少ないと思います。その中で有給取得の工夫と努力にご苦労されたと思った ・利用者の特性・変化に応じた専門的なサービス提供では利用者個々に対して具体的な対策を講じていて良いと思う ・委員さんから事業所へ対する信頼、コロナ禍における工夫した利用者のニーズの把握が伝わっている ・項目だけ見ても仕事する時間がとれるのかと思うくらい多く大変なことだと想像するしかない ・改善計画が具体的に作成されていて良いと思う。評価について 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護多機能の理念を理解して、住み慣れた地域で継続した生活が出来るように福祉・医療・地域等が一体化して高齢者の生活を支える ・看護多機能サービスの特徴を地域住民に伝える活動をする。 ・医療ニーズの高い利用者の在宅生活を支援する ・自ら学ぶ姿勢を実践する *職員から学びたい研修を自ら書き出す ・介護・看護・介護支援専門員との情報の共有をして自立支援を促すことができる ・職員皆で安心して働く環境とは何かを書きだして、職員と法人で取り組む

		<p>ては低めにしたのか「良く出来ている」があっても良いと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高いサービスを提供する為、必然的に業務量も増加することになりますが、職員の業務負担軽減を視野に入れて推進していく。また、各種業務の圧縮が可能か、ICTの活用も検討するなど・・・ ・事故防止の取り組みの再発防止策が具体的でとても良い ・ヒヤリハットは本当に生活の中の些細な事で起こるのだと改めて感じました。日々接しているからこそなせる事だと、改めてすごい事だと思った ・ヒヤリハット事例を分類化しデータ化することでより有効活用できるのではないか ・事業を適正に運営していると信頼している ・専門的なことは分かりませんが自己評価も拝見しますと概ねできているのではないのでしょうか。また、薬のヒヤリハットでダブルチェックするなど改善しようと努力し続けるのもとても良いと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営の安全管理等のマニュアル作成と見直しをする ①各種事故に対する予防と対策ができていないか（事故対応マニュアルの確認）②医療、ケア事故の予防と対策（個別のリスクマネジメントをする）③交通安全④夜間の訪問時の防犯対策 ⑤ 個人情報保護⑥災害時の緊急時の体制構築（BCPの作成） ⑦ パワーハラスメント講習・アンケート（年1回） ・求人は続ける ・リモート研修に慣れる
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・食器洗いやできる。おしぼりたたみが出来る。自分からできることは止めないで行動を尊重して見守りして自立を促すことが出来ていた ・ケアプランと個別介護計画を実践した ・職員間のコミュニケーションが不足していると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人ができることを増やす。家族ができることを増やす ・ケアプランと個別介護計画の実践と評価の実施を充実させる *本人・家族の持っている力を活用して自立を促すことができる介護の実践 ・コミュニケーション能力を高める
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えた時に相手の意見を否定しない。「ありがとう」「良く伝えてくれた」の気持ちを相手に伝えることで連携がスムーズになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護・介護・介護支援専門員との連携を密にする ・関係する事業所・病院・地域に看多機の機能について知ってもらう ・主治医との連携を図る ・緊急時の対応を家族や職員と確認する ・インフォーマルな社会資源の活用方法を職員や地域と一緒に

			考える	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも認知症や一人暮らしの世帯が増えている。個人情報観点から安易に相談出来ないが地域にあるサービスは気に留めている。サービスは必要になって紹介できる体制を保っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護多機能サービスの特徴を地域住民にも伝える ・地域住民があつまる場所の提供をする ・顔が見える関係作りに取り組む ・痰吸引が出来るように痰の吸引研修に参加する ・人工呼吸器の利用者を受け入れるための事前学習を行い理解を深める 	
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも自分の家での生活を希望しているが、それぞれの事情から在宅生活を困難にしている状況がある。事業所の役割は1人でも多くの地域住民に看護多機能ホームの機能を理解してもらうことと、私たち、福祉の専門職として知識と技術を提供して誰でも安心して暮らせる地域作りにあると思う ・今回の評価を受け業務の中で「あまりできていない」、職員の意識が低い項目が明確になったので業務改善に向けて職員同士の話し合いをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護や在宅生活に不安がある場合はいつでも相談してもらい一緒に考えて安心してもらう ・医療について心配なことがあれば主治医と相談する体制づくりをする 		

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できて いる	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			理念と介護、看護の協働についてはまとまっている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			・医療依存度の高い利用者に対して、概ね積極的に対応している。看多機としての役割を全うしていると感じている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		価している					合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			リモート研修の活用をはいかがでしょうか	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・年間計画に沿って月1回勉強会を実施している					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・月1回カンファレンスを開催して職員（看護・介護・介護支援専門）の連携を図っている					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・2ヶ月に1回に開催される推進会議に職員も参加して意見等を聞いていたがコロナ禍になってから推進会議の開催が出来ないため文書で確認して月1回の会議の話し合いで反映している					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			<p>・自己評価が高くないようですが、就業環境の改善をする努力は必要だと思います。</p> <p>・自己評価が低くなっています。人材確保が困難な中、日々の業務に加え、感染対策等、介護業界全体として、職員のストレスが増加傾向にあると感じている。不適切ケアケアに繋がりがやすい要因でもあったため重点的な対応をお願いします</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>自己評価が高くないようですが改善に努力が必要だとも思います</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		○			<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている						の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護において

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		全員で理解している					は、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 した日常生活を営む」ために、必 要な視点であるといえます
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の 予測と、リスク管理を踏まえ た計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続 的なアセスメントにより、利 用者等の状況変化を早期に 把握し、計画への適宜反映が 行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に 偏らないよう、適時適切に利 用者宅を訪問することで、家 族等を含めた居宅での生活		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	状況の変化を継続的に把握している	1回モニタリングを実施している。泊りが多い利用者に対しては他のサービスを勧めている					✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者に変化があった場合は、看護と相談して主治医の意見等が必要な場合はケアマネを中心に事業所内外の連携を図っている					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者に変化があった場合は、看護と相談して主治医の意見等が必要な場合はケアマネを中心に事業所内外の連携を図っている					
20	○ 利用者等の状況について、介		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有およ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・月1回の会議で伝えたり、口頭で伝えている					評価の視点・ 評価にあたっての補足 び対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・看護職から病気で留意することを援助の中で具体的に伝えるようにしている	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・利用者、家族からサービスについての質問や要望があった場合に例をあげながら分かりやすい説明をしている	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・ケアマネージャーが作成した計画を分かりやすく説明しイメージが湧きやすいように具体的な表現をしている	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
		・ 自宅で困っていることを定期的に取り上げている。看護師は自宅を訪問し必要なケアの提供や処置について家族に分かりやすく説明している					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
		・ 本人・家族を支え、サービスの希望や意向を取り、話し合いの場を設けている					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
		・ 在宅生活の継続をする際に起こりうるリスクを想定し、利用者、家族と相談しながら対応策を決めている					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容]					
		・ 利用者の状態の変化に対応できるように、家族の意向をあらかじめ確認している ・ 利用者の状態について、経過記録として残している					
2. 多機関・多職種との連携							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有できている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	活動が行われている						えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				○		<p>できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</p>
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		○				<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</p>
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容		○				<p>✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等について理解している						べき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・コロナの前は地域住民との交流も行なっていたが現在は停滞気味である。これからは、感染症対策をしっかりと行い地域との交流を行う ・介護教室の開催をする					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ・ケアプラン・個別援助計画書を誰でも確認できるようにした ・今後、利用者ごとの目標が評価、達成できるような書式を作成する		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ・主治医との連携や通院付添いで在宅での状況を確実に伝えている ・服薬管理ができない利用者や家族に対し		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<p>て薬局と連携をとりながら確実な薬の服用に努め病気が悪化しないようにしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態に変化がある時は事業所からも主治医に相談している 		
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りを希望する家族がいれば、訪問看護と医療と介護が連携して、利用者、家族の支援をしている ・看取りの勉強会を実施して、どのような状況でも対応できる心構えを習得している ・主治医との連携。 ・緊急時の対応手順の作成と職員に周知している ・看取りの同意書の作成と説明と同意を得ている 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」